

金剛山（山岡鉄舟）

一片の赤心 報国の情

千秋の節義 今に至るまで 清し

金剛山下 孤城の畔

挫き 得たり 虎狼 百万の兵

一片赤心報国情 千秋節義至今清
金剛山下孤城畔 挫得虎狼百萬兵

解説 金剛山を見上げて、楠公の忠義を追懐し、自らの心情を重ね合わせた詩である。

語釈 ※一片赤心|| ささやかではあるが、きわめて篤い真心。

※千秋|| 永遠の。 ※畔|| かわら、そば。 ※挫|| 打ち破ること。

※得|| できる、というほどの意。 ※虎狼|| 暴虐で猛々しいことを

いう。 ※百万|| 日柳燕石の「金剛山懐古」に「八十万衆何の為す所ぞ」とある。誇張の表現である。

通釈 ささやかとはいえ篤い真心、国家のためにこそ一命を擲って働こうとする情熱、それゆえにこそ、楠公の不変の忠義は、今日に至るまで永く伝えられて、忠臣の名は汚されないものである。金剛山のもとに孤立するとりでに拠って寡よく衆に敵し、あの百万と号する強兵をよくも打ち破ったものである。